

7. 災害調査

災害調査名	調査期間	調査内容	担当者
ジャワ島中部地震災害 復旧復興支援ニーズア セスメント調査	平成18年 6月5日～14日	平成18年5月27日にジャワ島中部で発生したM6.3の地震に関して、被害の実状と復旧復興支援ニーズについて調査するためのJICAの組織する調査団に参加した。現地では、被害実態調査、建築・住宅分野のニーズアセスメント（エンジニアドとノン・エンジニアドとのそれぞれの取り組みなど）などを行った。	橋府龍雄
2006年台風13号被害調 査	平成18年 9月20日～23日 12月4日～6日	平成18年9月17日に長崎県に上陸した台風13号は、九州各地を中心に強風被害や洪水をもたらした。そして台風の接近にともなって、宮崎県延岡市では竜巻により甚大な被害が発生した。これらの強風や突風による被害のうち、延岡市の竜巻被害と福岡県飯塚市の文化施設の強風被害を調査する目的で、現地調査を実施した。延岡市の竜巻は藤田スケールでF2クラスのもので、長さ約7.5kmにわたって縦断する被害が認められた。また、後日調査として、延岡市、宮崎市及び長崎市において最新の統計資料の収集、地方自治体による被害復旧の状況についてヒヤリング等を行った。	奥田泰雄 喜々津仁密
2006年佐呂間町竜巻被 害調査	平成18年 11月8日～10日	平成18年11月7日に北海道を寒冷前線が通過するに伴い、北海道佐呂間町若佐地区で竜巻による甚大な突風被害（死者9名、住家の全壊12世帯等）が発生した。同地区での被害状況を調査する目的で、現地における被害調査を実施した。死者9名を出した新佐呂間トンネル作業事務所の被害現場では、上部構造と木ぐいととの留め付け状況等の調査を行った。またその他の住宅の被害に関しては、飛来物の外壁への衝突、屋根の剥離といった被害が目立ち、明確な被害の境界が認められた。竜巻の被害が発生した範囲は、長さ約1km、幅約100m～200mの範囲であるが、飛散物は若佐地区北側の広範囲にわたり、約10km先のサロマ湖周辺まで到達していた。	奥田泰雄 喜々津仁密 村上知徳
平成19年能登半島地震 被害調査	平成19年 3月25日～27日	平成19年3月25日の午前9時42分頃、能登半島沖の深さ10kmを震源とするマグニチュード6.9（暫定値）の地震が発生した。被災地における木造、鉄骨造、RC造建築物の被害概況、並びに強震観測点の地震計設置状況、今後の追加調査等の必要性の検討に資する基礎資料の収集を目的として、初動調査を実施した。	齊藤大樹
	3月27日～29日	能登半島沖地震によって大きな地震動を観測した輪島市内の震度観測地点の周辺状況を調査し、加えて余震観測のために輪島市庁舎及び輪島市門前支所の建物内に強震計を設置した。	小山 信 鹿嶋俊英
	3月28日～30日	加賀市、金沢市、志賀町、七尾市の天井被害情報のあった体育施設について、天井を中心に非構造部材の被害調査を行った。被害調査を行った建物の構造には大きな被害はみられず、天井についてはグラスウールボードの脱落が多くみられた他、パー材や他種天井版の脱落がみられ、窓ガラスの破損等もみられた。	脇山善夫
	3月29～4月2日	初動調査の結果に基づき、被災住宅の構造的特徴の把握、被害原因の推定に資する資料の収集を目的として、木造建築物の被害に関する第2次調査を実施した。	河合直人 山口修由 中川貴文 村上知徳